

毎日新聞朝刊 広島県(備後)版  
2016年1月29日(金) 掲載

# クイズや訓練 防災学ぶ

尾道・久保中 体験型教室で200人



災害への備えをクイズ形式で楽しみながら学ぶ生徒たち  
＝尾道市の市立久保中学校で

災害への備えの大切さを災害時に役立つ知識を学び、安心・安全な街づくりを目指す「みんなで体験！防災教室」（「だいいじょうぶ」キャンペーン実行委員会主催）が28日、尾道市防地町の市立久保中学校利

田寺次校長）で開かれた。約200人の生徒が参加し、毛布で応急的に作った担架で負傷者に見立てた人形を運ぶなど、楽しみながら防災について学んだ。

【富田房二郎】

などを行った。応急担架の毛布の端を手に着いて持ちやすくし、落とさないようにするコツなどを学んだ。また、非常時の持ち出し品を覚えるクイズでは、グループごとに点数を競い合いながらポイント

国内外の学校で防災教室を開くNPO法人「プラス・アーツ」が考案した災害対応を想定した六つのプログラムを、生徒が約15人ずつのグループに分かれて会場を回り体験した。チラシや新聞を使った紙倉庫作りや、重さ約30kgの人形を負傷者に見立てた搬送訓練



を学んでいった。

3年の小林美采希さん(15)は「チラシで器を作ったり、ネクタイを使った止血など身近なものが災害で役立つことがよく分かった」。2年の木下涼生君(14)は「災害時の持ち出し品は食料ぐらいしか考えていなかったが、携帯トイレなど用意しておかないといけないことが分かった」と話していた。